


令和6年度 御船小学校
英語科公開授業

本校の英語教育について



令和6年11月12日（火）

→ ○御船町総合計画

「みんながわくわくする御船町」

→ ○英語日本一のまちづくり

小学校入学の段階から外国語（英語）の音声や基本的な表現に慣れ親しみ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、英語を通して言語や文化に対する理解を深め、「聞くこと」「話すこと」等の実践的コミュニケーションの基礎を培う。

* 教育課程特例校

- 令和2年度より、低学年での英語教育において教育課程を編成
- 令和5年度より、以下の時数で英語活動及び英語科の授業を実施

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
英語活動	35	35	70	70		
英語科					105	105

* 全学年通しての取組

○系統立てた年間指導計画の作成

○コミュニケーションポイントの提示

毎時、黒板にカードを掲示し、5つのコミュニケーションポイントを意識して活動に取り組む意識を持たせる。

○ふり返しシートの活用

毎時ではなく、必要な時間を選択し活用する。



令和6年度公開授業

- ➡ ○期日 令和6年11月12日（火）
- ➡ ○単元名 Unit 5 Where is it from?（8時間扱い 本時3／8）
- ➡ ○単元の目標

- ➡ (1)身の回りのものの生産国について、聞いたり話したりすることができる。
【知識及び技能】
- (2)身の回りにあるものや日本と世界のつながりを知るために、身の回りのものとその生産国について自分の考えや気持ちを話することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3)相手に伝わる工夫をしながら、身の回りの生産国について話そうとしている。
【学びに向かう人間性等】

○単元を通した学習課題

- ➡ 身の回りにあるものや日本と世界のつながりを知るために、「私のものはどこから？」クイズ大会をしよう。

* 教育課程特例校 公開授業

○本時の目標

自分の身の回りにあるものを紹介したり、どこの国なのかを聞いたりすることについて、教師の話や友達と何度もやり取りをすることを通して、伝え合うことができる。

○児童に示す本時のゴール

自分の身の回りのものとその生産国について友達と伝え合おう。

○期待される学びの姿

This is Where is it from? It's from...国名, について理解し、自分の身の回りのものとその生産国について伝えようとしている。

* 指導上の留意点

- 自分の身の回りにあるものを紹介し、日本と世界のつながりを知るために、「私のものはどこから？クイズ大会をしよう！」という単元のゴールを設定し、単元のゴールを児童と共有することで、学習への見通しと意欲の継続につなげる。
- 自分の身の回りのものと生産国について調べ、オリジナルのクイズを作ることで、クラスや隣のクラスの友達と小坂小学校の友達にクイズを通して自分のものとその生産国について伝えたいという相手・目的意識をもたせる。
- 音声から文字への流れを基本とした授業づくりを行う。リスニングでは、すべての単語を聞き取ろうとせず、強勢の置かれるキーワードを掴ませるようにする。文字情報は音声理解が十分にできた後で与えるようにする。
- 英語のリズムを大切にしたい指導を行い、歌やチャンツを活用しながら楽しく学習できるようにする。
- 個人・ペア・全体での学習形態や中間指導を効果的に取り入れることで、個人の表現力を高められるようにする。
- 教師のやり取りを聞いたり、教師や友達とやり取りしたりする活動を繰り返しながら、言語活動を通して、本単元で必要な資質や能力を育成していく。

* 教育課程特例校 公開授業



笑顔で、楽しく、テンポよくスタート！
歌では、出てくるものや国の言い方に焦点を
当て、カードをヒントにしながら、英語の音
声や表現に慣れ親しんでいきます。



ALTと担任のやり取りの中で、再度新出
表現のThis is my ~./ Where is it
from?/It's from ~.に出会わせ、繰り返
し聞いたり、使ったりしながら、表現を
学び、自分のやり取りに生かせるように
します。

* 教育課程特例校 公開授業



自分の身の回りのものを紹介し合う中で、
This is my ~./ Where is it from?/It's from ~.
を使って友達とやり取りを行い、表現を自分の
のものにしていきます。



中間指導で、児童の困り感を拾い、また、
よかったところをほめて、さらに自信を
もって取り組めるようにします。

* 教育課程特例校 公開授業



中間指導後、再度ペアを変えて伝え合い、やり取りをさらによりよいものにしていきます。



最後に、チャレンジタイムで全員の前で発表してもらいました。全体に共有することで、発表内容の確認ができたり、発表者のよさを伝え合う場を設定したりして、学びを再確認しました。

* 参加者の感想 *

○子供たちが活発に英語を使ってコミュニケーションを取っていたので、素晴らしいなと思いました。

○歌の時に、絵を有効的に活用していたので良かったです。チャンツは、先生オリジナルのチャンツを作っておられたので、子供たちも楽しく活動できているなと思いました。音声から表現を定着することができていると思いました。

○先生がクラスルームイングを使っていたので、英語のシャワーを子供たちは、しっかり浴びているなと感じました。

* 参加者の感想 *

○中間指導で子供たちの困り感を共有したことで、次のペアトークに生かされていたと思う。子供たちが意識して取り組んでいる姿が見られました。

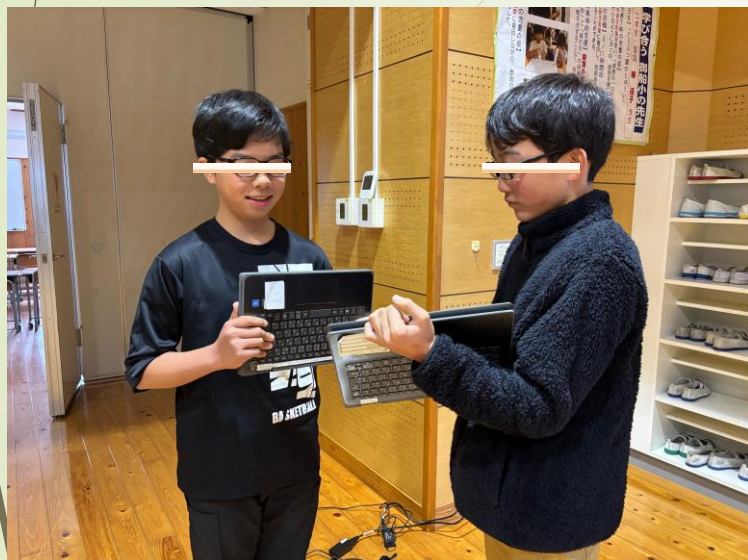
○ALTの発音を聞く時間が設定されていたので、生の英語にしっかり触れる機会が得られていると思いました。

○授業の流れがとても参考になりました。帯でアルファベットを聞く時間が設定されていたので、子供たちもスムーズに活動に移せていました。今後の授業に生かしたいと思いました。

* 公開授業後 *

～となりのクラスと自分のものはどこから？

クイズ大会をしました～



【子供達の感想】

- 自分のものを実際にタブレットで見せて友達とクイズができて楽しかったです。
- 隣のクラスの友達とクイズができてよかったです。
- 最初は、緊張したけどだんだん楽しくなってきました。
- 学習する前は、難しいなと思っていたけど、たくさん練習して言えるようになりました。みんなとやり取りができてとても楽しかったです。
- アジアのものが多くてびっくりしました。いろいろなものの生産国を調べてみたいなと思いました。